

ミュリエル・ラアリー著、濱中淑彦監訳『中世の狂気 十一～十三世紀』

..... 鈴木 晃仁 465

投稿規定..... 467

編集後記..... 469

《本号の表紙絵》

『工場としての人間』

オウセイ・テムキンの「人間の生物学における比喩」(*The Double Face of Janus* 所収)が示すように、人体を何かに喩えることは、文学や詩的表現だけでなく、科学的な医学にも深い影響を与えてきた。図は、フリッツ・カーン (Fritz Kahn, 1888–1968) による、高度産業化の時代を象徴するような、人体を工場にたとえた図 (1930 頃)。呼吸や消化は化学工場に模されているが、脳と神経系では小人が議論したり考えたりすることで擬人的に精神機能を表わそうとしている点が興味深い。ウェルカム図書館蔵。

(鈴木 晃仁)